

学校適正配置 学校形態によるメリット・デメリット

	分離新設	学年分校設置	地域分校設置
状態	1つの学校を分け、別の新しい学校を開設すること 通学区域の分割を伴う	本校から離れたところに分校を開設し、一部の学年を移すこと	本校から離れたところに分校を開設し、通学区域の一部を分校に移すこと
事例	直近事例： ●平成22年4月、焼野小学校（鶴見区）の開設（茨田北小学校より分離新設） * 両校の距離：約840m（正門間・直線）	直近事例： ●友淵小学校（都島区） ：1,2年:分校(H30) * 距離：約470m（正門間・直線） ●常盤小学校（阿倍野区） ：2,3年:分校(H30) * 距離：約10m（正門間・直線）	直近事例なし

* 堀小・西高の距離：約460m（正門間・直線）

児童・保護者	メリット	<ul style="list-style-type: none"> 行事等において学校間の移動がない 兄弟姉妹の通学先が同じ 通学距離のバランスが保てる 学年の縦割り活動が容易 	<ul style="list-style-type: none"> 「堀江小学校」として本校・分校とも同じ教育方針のもと、同質の教育が享受できる 	<ul style="list-style-type: none"> 「堀江小学校」として本校・分校とも同じ教育方針のもと、同質の教育が享受できる 兄弟姉妹の通学先が同じ 通学距離のバランスが保てる 学年の縦割り活動が容易
	デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 独立した新しい学校となるので、在学中に学校名が変わる 	<ul style="list-style-type: none"> 行事によっては本校・分校間の移動が必要 学年によって兄弟姉妹の通学先が異なる 通学距離のバランスが保てなくなる 学年の縦割り活動が難しくなる 	<ul style="list-style-type: none"> 行事によっては本校・分校間の移動が必要

学校運営	メリット	<ul style="list-style-type: none"> 独立した学校として特色ある学校運営ができる 学校運営管理がし易い 	<ul style="list-style-type: none"> 「堀江小学校」の教育方針・実践の積み重ねが継承できる 従来からの地域との協力関係の継承が容易 	<ul style="list-style-type: none"> 「堀江小学校」の教育方針・実践の積み重ねが継承でき、かつ独立校に近い運営も可能 従来からの地域との協力関係の継承が容易
	デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 新校として教育実践の積み重ねを一から構築する必要がある 新校として地域との協力関係を一から構築する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 校地が離れており、学校運営管理が煩雑になる 本校・分校間で、児童、教職員の交流、連携が煩雑になる 全体規模は過大なままであり、全校行事の実施や組織管理等が煩雑になる 	<ul style="list-style-type: none"> 校地が離れており、学校運営管理が煩雑になる 本校・分校間で、児童、教職員の交流、連携が煩雑になる 全体規模は過大なままであり、全校行事の実施や組織管理等が煩雑になる

地域	メリット	<ul style="list-style-type: none"> 通学区域はそのままなので、学校を支える地域活動の一体性・協力体制が維持確保できる 「堀江小学校」の伝統・愛着が継続できる 	<ul style="list-style-type: none"> 本校・分校で通学区域が分かれるが、学校としては1つの堀江小学校であり、学校を支える地域活動の一体性・協力体制が維持確保しやすい 「堀江小学校」の伝統・愛着が継続できる
	デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 地域が通学区域で分割されることとなり、地域活動におけるこれまでの一体性が損なわれる 通学区域が狭くなるので、学校支援のための担い手確保に課題が生じる恐れがある 「堀江小学校」の伝統・愛着との関係は希薄化する懸念がある 	